

米7月総合CPIの上昇率は市場予想を下回る

～コア指数は市場予想と一致し、2021年10月以来の低い伸び～

◆PPIは市場予想を上回る

10日発表の7月米CPI(消費者物価指数)の総合指数は前年同月比+3.2%と、13カ月ぶりに伸びが加速しましたが、市場予想(同+3.3%)を下回りました。

項目別では、食品が前年同月比+4.9%と11カ月連続で伸びが鈍化しました。また、エネルギーは同▲12.5%と3カ月連続で2ケタの下落となりました。

食品とエネルギーを除くコア指数(コアCPI)は同+4.7%と市場予想と一致しました。4カ月連続で鈍化し、2021年10月以来の低い伸びでした。モノ(食品、エネルギーを除く)の上昇率は同+0.8%と前月(同+1.3%)から一段と鈍化し、サービス(エネルギー関連を除く)も同+6.1%と前月を下回りました。サービスのうち住居費は同+7.7%と4カ月連続で伸び率が鈍化しました。

11日には、7月米PPI(生産者物価指数)が発表されました。総合指数は、前年同月比+0.8%と前月(+0.2%)から加速し、市場予想(+0.7%)を上回りました。食品とエネルギーを除くコア指数も同+2.4%と市場予想(同+2.3%)より高い伸びとなりました。

7月CPIは足元のインフレ率の鈍化傾向を示しました。ただ、7月PPIは、インフレ圧力の根強さが垣間見える結果となりました。

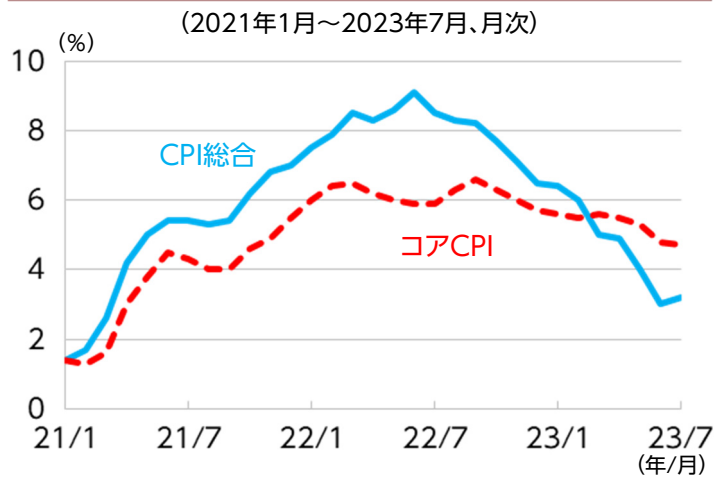
◆市場の反応・注目ポイント

先物市場が織り込む9月FOMC(米連邦公開市場委員会)の見通しは、CPIが発表された10日に据え置き観測が一段と広がりましたが、11日はPPIを受けて利上げ予想がやや強まりました。

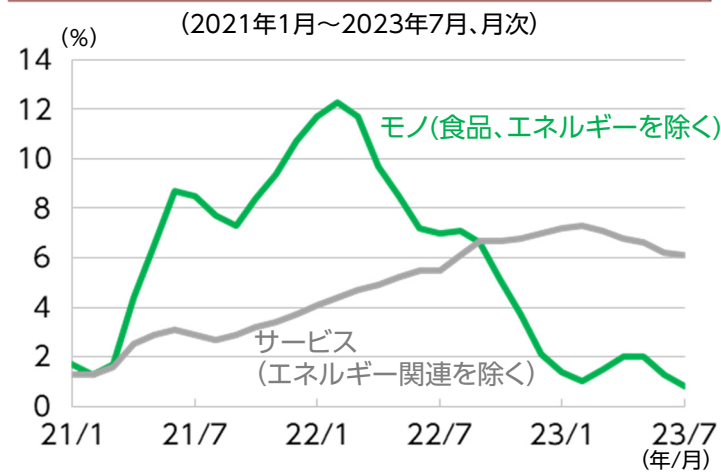
金融市場では、低調な米30年国債入札結果(10日)も影響し、米10年国債利回りが11日に一時4.17%まで上昇しました。為替市場では、一時1ドル=145円近辺まで円安・米ドル高が進行しました。株式市場では、金利に敏感なハイテク銘柄に軟調な動きがみられました。

当面の金融市場は、ジャクソンホール会合(8/24-26)や各種経済指標を確認しながら、FRB(米連邦準備理事会)の政策運営を注視していくことになりそうです。

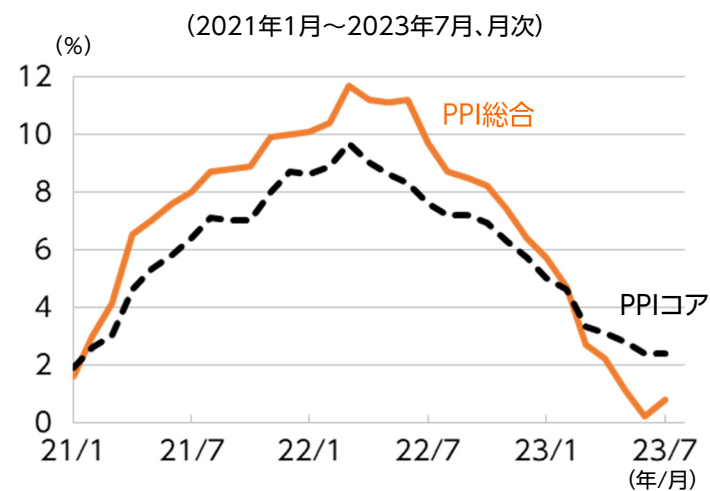
【図1】米消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図2】モノとサービス(前年同月比)の推移



【図3】米生産者物価指数(前年同月比)の推移



(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。